

2016年10月14日（10月15日改訂）

各 位

[大館ボラバスプロジェクト](#)

責任者 小林佳久

odatevolubus@gmail.com

岩手県岩泉町における台風10号の被災に対する支援活動について

（報告とお願い）

標記について、10月13日（木）に当プロジェクト会員のボランティア16名が、岩泉町災害ボランティアセンターの指示により岩泉町安家地区において、災害支援ボランティア活動を行ってまいりましたので、現地の状況と今後の対応策について報告するとともに、皆様へご協力をお願いを申し上げます。

はじめに現地の状況についてですが、あまりの被害の大きさに言葉もありませんでした。多くの川沿いの集落では、家屋に川砂や土砂等が大量に入り込み、倒壊や一階部分の壊滅的損壊等が多数発生しており、まるで3・11と同じような状況が出現していました。また各所で道路が削り取られ（現在はいずれも片側交互通行できるまでに復旧）、橋が落ち、コンクリートの塊や流木等が散在しています。

[岩泉町のまとめ](#)によれば、避難所に収容されている人数は徐々に減って、10月11日現在221名となっています。電気・水道などのインフラはほぼ完全復旧しているとされていますが、水をかぶった電気設備に通電できるはずもなく、苛酷な在宅避難をされている方々が数多くいらっしゃるようです。

今回活動したうちの一軒のご自宅は、泥をかぶったまま手つかずの状況でありながら、そこで生活されていました。[岩泉町災害ボランティアセンター](#)に寄せられた床はがしや泥出しの要請は減ってきているようですが、ボランティアセンターの運営サポートに入っている[一般社団法人オープンジャパン](#)によると、たとえば、一階部分の壁が全て抜けはがれて柱だけになっているお宅の二階で生活していながら、助けを求めない被災者などもいて、ボランティアニーズを掘り起こさなければ誰からも手を差し伸べてもらえない方々の人数は、いまだ計り知れない模様です。

一方、岩泉町の地理的環境による要因や、被災状況の報道の薄さなどがあいまって、現地に入るボランティアの人数は圧倒的に不足しています。雪が降るまでの間に、どれだけ多くのボランティアが活動できるかが、死活問題とさえ思われます。

以上の事から、一人でも多くのボランティアを隣県秋田から送り込むことが、私たち秋田県に住むオーガナイザーに課せられた使命であると考えます。

とは言え、現実問題として、大館ボラバスプロジェクトが残り1~2カ月の間に再度バスを出すことは、非常に困難です。

そこで、当プロジェクト会員の皆様に対しては、乗用車などで訪れ個人的に活動して頂ける方を募ります。現地ボランティアセンターとの打ち合わせや保険加入、11月30日までの間措置されている高速道路無料通行（災害派遣車両）の手配などは当プロジェクトが代行します。（お気軽にご相談ください。）

岩手県社協では、10月15日から10月末日までの間にボランティアバスを出す団体等に対して、助成制度を設けたようです。<http://www.iwate-shakyo.or.jp/docs/2016101100042/> 秋の観光シーズンにあり、日程的にも厳しいですが、関係各位には、是非とも前向きにご検討いただきたくお願い申し上げます。

いずれにいたしましても、岩泉町で被災された方々のお手伝いを手軽に行うことが出来るのは、日帰り可能なこの地域に住む私たちの特権です。お一人でも多くの方の行動を、切にお願い申し上げます。

(現地写真)

